

21 陳情 第15号	「沖田総司逝去の地」歴史標柱建立への陳情
付託委員会	総務区民委員会
受理及び付託 年 月 日	平成21年9月16日受理、平成21年9月18日付託
陳情者	荒川区町屋————— ————— ————— 外205名

## ( 要 旨 )

「沖田総司逝去の地」歴史標柱を建立してください。

## ( 理 由 )

幕末動乱のなか、幕府側の一員を担った新選組の人気は新宿区において「試衛館跡」碑が建立されたほど周知の通りである（15新教生第1860号）。この新選組の隊士のなかで特に有名なのが沖田総司である（同号で建立された歴史標柱にも同人の名前がある）。沖田の人気は平成の現在に至っても定着した人気を持ち、菩提寺は港区元麻布3丁目にある専称寺である。同寺には沖田総司を偲び、民間団体が主催し、年に1回参拝ができる「総司忌」には常時百名以上が参拝に訪れている。その逝去した場所はいくつかの文献から貴区内に存在する大京町29番地（当時大番町89番地）に居住していた柴田平五郎邸内である。そのため沖田総司を偲ぶファンの多くはこの地域に来訪し、生前の沖田総司を偲んでいるが、碑もないことから来訪者が困惑しているケースを聞知している。そのため、来訪者のために標題の碑の建立を願うものである。

- 1 碑の建立についての位置付けは新宿区教育委員会で定めた「歴史標柱」と同様とし、「15新教生第1860号」に建立された「試衛館跡」の碑（新宿区市谷柳町25番地）の前例に倣うものとする。
- 2 建立場所を新宿区大京町28番地1号地内にある旧玉川上水池尻橋附近とする。この場所は昭和24年11月24日まで旧都道、東京都が所管する橋梁であり、新宿区土木課によると、同地は平成13年に国より譲渡されており、現在は区有地となっている。
- 3 沖田総司は白河藩士沖田勝次郎の子として天保13年（1842）～慶応4年（1868）旧暦5月30日まで存命した実在の人物である。同人は幼少より近藤周助の経営する道場「試衛館」（跡地は平成16年3月に歴史標柱を建碑済み）で修行を積み、文久3年（1863）に近藤勇とともに上京し、佐幕側の市中取締部隊、新選組の副長助勤の筆頭を担った人物で、慶応4年に病状が悪化するまで在籍していた。
- 4 沖田総司の亡くなったのは植木屋平五郎宅となっており、新宿区大京町28、29番地（当時四谷区大番町89番地）には柴田平五郎という植木職がおり、同家は昭和期まで居

住している。

5 戦前の小説では、前述した「新選組始末記」にある「隊士絶命銘々録」に沖田総司と黒猫の話が描かれている。この逸話は現在もファンに熱く語られる内容であり、平成に至っても大京町へ訪れるファン来訪は実にこの影響によるものが多い。

6 戦後となり「新選組血風録」を司馬遼太郎氏が執筆すると、あまりにもリアルな描写のため、一部のファンには史実のように語る者も多く発生している。この作品にも「菊一文字」や「沖田総司の恋」という題名はTV作品には必ず採りあげられるほど人気作品となっている。この作品でも千駄ヶ谷死亡説が記されている。

7 その後、時代劇を書く作家（三好徹、笹沢佐保、浅田次郎、早乙女貢）にとって沖田総司を主題とした作品は多く著され、ほとんどの作品は千駄ヶ谷の死について述べている。そのため、沖田総司をキー・ワードとして国立国会図書館のデータベースで検索すると120件の該当図書があり、新宿区立図書館のデータベースでは実に54件の所蔵が確認されている。

8 映像では沖田総司人気の起源が昭和初期に確認できる。作家子母沢寛により「新選組始末記」が刊行されると新選組の人气が飛躍的に向上し、沖田総司の人气が特化され、昭和4年（1929）に「剣士沖田総司」（ツキガタプロ）が上映されている。その後、戦前期において新選組を取り扱う作品には必ず沖田総司がキャスティングされている。

9 戦後になり、GHQによる時代劇映画の規制が解除されると多くの時代劇映画が上映されている。昭和50年（1965）まで新選組を題材とした作品は実に28作も作られ、その人気ぶりが窺える。特に昭和49年（1974）に東宝で封切られた草刈正雄主演「沖田総司」では草刈正雄の出世作として知られ、多くの観客動員数を確保し、のちにTBSにより草刈が同役でTV「新選組始末記」に出演するほどの人気を博している。

10 TVでは昭和30年代から新選組を題材にした作品が多く作られ、特に有名なのは昭和40年（1965）よりNET（現テレビ朝日）より放映された「新選組血風録」で、沖田総司役を演じた島田順司（しまだじゅんし）は次回作となった「燃えよ剣」でも出演し、以降、島田は永年沖田役を演じている。また同人の熱演により、放映時に沖田の名前を島田の芸名にかけて「そうし」としたため、ファンのなかには「おきたそうし」と語るファンが多く内在するほど影響した番組だった。この2作品とも必ず千駄ヶ谷が登場する回が存在し、沖田総司の最期を放映している。この後、沖田総司を題材としたTV作品は多く放映され、いずれも植木屋平五郎宅で沖田の最期が描かれている。

11 平成16年（2004）にNHKで放映された「新選組！」では沖田総司（配役藤原竜也）とともに柴田平五郎（植木屋平五郎）を島田順司が演じており、同年に新宿区で建立した「試衛館跡」碑には多くのファンが来訪している。また、この年より発足した市谷柳町試衛館主催の「試衛館まつり」（毎年開催）では常に一定数の人数が集まり、何度か「こうほう新宿」にも掲載されている。このまつりで請願者は数回講演を受託しているが、この講演の際、多くの参加者より沖田総司が逝去した場所に碑の建立を願う声が多い。

12 上記で述べたように史実で見ると、日本の歴史にとって沖田総司が果たした役割は新選組組織の行動であり、歴史的価値としては稀有ではあるが、以降を見れば、文学的、および芸術的には多くの影響を与え、そのファンの多くに貴区大京町で同人が亡くなったことを伝える標柱の建立には価値を見出せるものと考えられる。

- 13 ちなみに沖田総司に関する文化財指定を検討した行政があるかを調査したところ、昭和41年に港区教育委員会で刊行された「港区の文化財」第4集に「沖田総司墓」が採りあげられている。
- 14 逆に碑の存在がないことはこれらの多くのファンの失望に繋がることや、逆に歴史的事実が歪曲される恐れもあり、事実認定をすることによって新宿区の信頼効果、およびファンの来訪によって途中、周辺商業施設に波及することによる二次的経済効果が生まれることは間違いのない事実である。この請願について、大京町町会長、また沖田家子孫へ事前に同意を求めたところ、碑の建立請願について、反対意見はいただかなかった。